

果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)越冬量調査

1 目的

果樹を加害するカメムシ類は、越冬数と5~7月の予察灯の誘殺数の相関が高いことから、果樹園での5~7月の発生量を予測するため、カメムシ類の中で、最も発生量の多いチャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法

2月中旬頃に、東予10か所、中予10か所、南予20か所の計40か所から、それぞれ1地点2か所(各1㎡)の落ち葉を採取し、越冬量虫数を調査した。

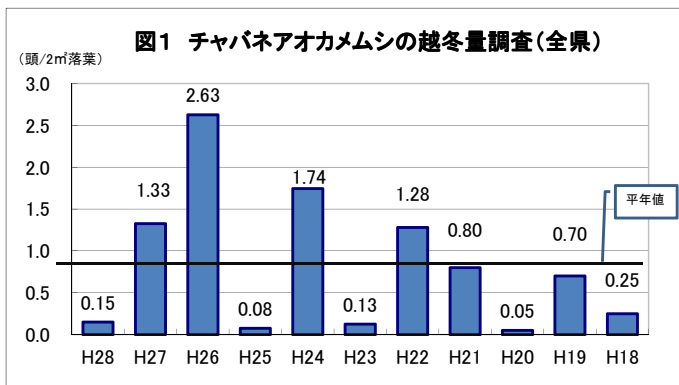
3 結果

- (1)越冬虫数は、0.15頭/2㎡と平成(0.90頭/2㎡)より少なかった(表1、図1)。
- (2)越冬確認地点率は、12.5%と平成(32.5%)より少なかった(表1)。
- (3)越冬虫数等の結果から、5~7月の発生量は、平成に比べ少ないと予測される。

表1 愛媛県内の果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)の越冬量調査 (頭/2㎡落葉)

	H28	平成	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18
東予	0.00	0.75	0.70	0.80	0.00	1.90	0.00	2.50	0.20	0.06	1.24	0.10
中予	0.50	1.09	0.80	3.70	0.20	3.44	0.20	1.30	0.40	0.10	0.80	0.00
南予	0.05	0.87	1.90	3.00	0.05	0.90	0.15	0.65	1.30	0.00	0.25	0.46
全県	0.15	0.90	1.33	2.63	0.08	1.74	0.13	1.28	0.80	0.05	0.70	0.25
調査園地数	40	-	40	40	40	39	40	40	40	59	61	52
越冬確認地点率	12.5	32.5	52.5	55.0	7.5	53.8	12.5	52.5	42.5	3.4	27.9	17.3

※平成値は過去10年の平均値



4 防除上の注意

- (1) 果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので注意する。
- (2) 主に山林から果樹園に飛来するため、被害は山林に近い園地で早く発生し、多くなる傾向にある。
- (3) 園地で飛来を確認した場合には薬剤防除を行う。



写真1:越冬場所である落葉を採集



写真2:25℃の室内で飼育中



写真3:チャバネアオカメムシ越冬成虫

<参考>

- ・果樹を加害する主要3種では、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの順に多い。
- ・いずれも成虫で越冬し、4月頃より活動を始め7月末頃まで生存し、モモ、ナシ等の果樹を加害する。その後8月頃から新成虫が発生する。
- ・チャバネアオカメムシは、クヌギ等の落葉下で越冬し、越冬中は暗褐色をしている。
- ・越冬量が多い年は、5月から7月の発生が多くなる可能性が高いと考えられている。
- ・4月からは予察灯、集合フェロモントラップによる誘殺状況のデータを掲載予定。